

インターネット等による情報の入手先

湧水町ホームページ https://www.town.yusui.kagoshima.jp/	気象庁 https://www.jma.go.jp/jma/
鹿児島県防災Web http://www.bousai.pref.kagoshima.jp/pub_web/	鹿児島地方気象台 https://www.jma-net.go.jp/kagoshima/
早よ見やん川内川(リアルタイム防災情報) http://www.qsr.mlit.go.jp/sendai/bousai/	鹿児島県河川砂防情報システム http://www3.doboku-bousai.pref.kagoshima.jp/

✉ 湧水町メール(湧水町防災情報配信サービス)

防災情報などを携帯電話やパソコンにメールでお届けする無料の「湧水町メール」を配信しています。

<登録方法>

- ①右のQRコードのリンク先から登録するか、【t-yusui@sg-m.jp】へ直接空メールを送信してください。
- ②折り返し、登録用メールが届きます。案内に従ってご登録ください。



●テレビによる情報の入手例

1 NHK総合テレビを表示し、リモコンの「d(データ放送)」ボタンを押してください。

2 リモコンの矢印で「安心・安全ポータル」に合わせ、「決定」ボタンを押してください。

3 お住まいの町(テレビに設定している郵便番号で判定)から情報が発信されていれば、「避難情報」「避難所開設情報」ボタンが赤くなるので、選択するとそれぞれの情報が表示されます。※県内のどこ地域にも情報がない場合は、ボタンがグレーになります(選択できません)。



●災害用伝言ダイヤルの利用方法

地震や洪水などの大災害発生時は、電話利用が急激に増加し、電話がつながりにくい状況が続くことがあります。このような場合は、以下のサービスが開設されます。 ※携帯電話各社でも同様のサービスを提供しています。

災害用伝言ダイヤル 1711

このサービスは、大規模な災害が発生した場合、「声の伝言板」(安否情報)の役割をする電話サービスです。被災地内とその他の地域の人々との間などで、伝言の登録・再生をすることができます。

体験利用日
▶毎月1日・15日 ▶正月三日 ▶防災週間 ▶防災とボランティア週間

伝言の録音方法	伝言の再生方法
<ol style="list-style-type: none"> 1 1711 をダイヤル 2 1 を押す 被災地内の方も、被災地以外の方も 3 被災地の方の電話番号を「市外局番」からダイヤルしてください 4 伝言を録音する 	<ol style="list-style-type: none"> 1 1711 をダイヤル 2 2 を押す 3 4 伝言を再生する

家族・関係者の連絡先

一人に2つ以上の連絡先を控えておくくと安心です。まずは、下の表に記入しましょう。

氏名	緊急連絡先	携帯電話などの連絡先
()	—	
()	—	
()	—	
()	—	
()	—	

湧水町 防災マップ

保存版

令和4年3月作成



玄関・リビングなど
わかりやすいところに保管!



ひもやフックを通して壁にかけるなど、いつでも見られるように保管してください。

避難するときは、一緒に持ち出しましょう!

湧水町役場 <https://www.town.yusui.kagoshima.jp/>

栗野庁舎 〒899-6292 鹿児島県始良郡湧水町木場222番地 電話 0995-74-3111

吉松庁舎 〒899-6192 鹿児島県始良郡湧水町中津川603番地 電話 0995-75-2111

地域ぐるみで取り組む防災・減災

災害発生時には、湧水町をはじめ、警察・消防などの防災関係機関が全力をあげて対応にあたりますが、火災や道路の寸断・断水・停電など様々な被害が広い範囲で起きた場合は、対応が非常に困難な事態が予想されます。このような場合には、地域ぐるみで協力し合い、助け合うことが大切になります。地域の自主防災組織を結成して、防災知識を身につけることや、いざというときの役割分担を決めるなどして、地域の防災力を高めましょう。



警戒レベルと避難情報

令和3年5月から、とるべき行動を明確にする形で避難情報の種類が変更されました。警戒レベル4の避難指示が発令されたら、すぐに危険な場所から避難してください。

警戒レベル (湧水町が発令)	避難情報	状況	とるべき行動
5	緊急安全確保*	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保! ●命を守るため、自宅や近隣の建物で緊急的に安全確保してください。

警戒レベル4までに必ず避難!

4	避難指示	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難 ●危険な場所から全員避難してください。 ●屋内で安全確保できると自ら判断できる場合は垂直避難も可能です。
3	高齢者等避難	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 ●高齢者等の避難に時間を要する人やその支援者は避難してください。 ●高齢者等以外の人も、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁が発表)	気象状況悪化	自らの避難行動を確認 ●ハザードマップなどで避難行動を確認しましょう。 ●災害想定区域、避難場所や経路、避難のタイミングを確認してください。
1	早期注意情報 (気象庁が発表)	今後気象状況悪化 のおそれ	災害への心構えを高める ●最新の防災気象情報などを確認しましょう。

*災害の状況を実際に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5の緊急安全確保は必ず発令されるものではありません。



状況に応じて早めの避難を

雨に注意しましょう
土砂災害の多くは雨から起こります。大雨や長雨で危険だと思ったら、早めに避難しましょう。1時間に20mm以上、または降り始めから100mm以上の降雨量になったら十分な注意が必要です。

避難指示などには速やかに従いましょう
町から避難指示などの避難情報が発令されたら、速やかに従いましょう。

テレビ、ラジオ、スマホ、アプリ、SNSから情報収集
気象予報などさまざまな情報に気を配り、近所の方たちとも連絡をとりあひましょう。避難の準備も忘れずに行ってください。

声のかけ合いと助け合い
子どもや高齢者の避難には誰かの助けが必要で。常に声をかけ合い、助け合う地域の輪、人の和で、みんなの安全を守りましょう。

自然災害に備えて

災害時に最も頼りになるのは家族です。家族そろって防災について話し合ひましょう。

1 家族一人ひとりの役割分担

火の始末の係、お年寄りや乳児などの安全確保の係、非常持ち出し品の係など、家族一人ひとりの役割分担を決めましょう。

2 家族間の連絡方法

災害はいつ起こるかわかりません。災害用の居場所を伝える方法を考えましょう(災害用伝言ダイヤルの活用など)。

3 避難所の確認

自宅、学校、勤務先から避難所への最も安全な経路と、家族全員が落ち合える場所を決めましょう。

4 初期消火の方法を覚えましょう

消火器の置き場所や使い方を確認しましょう。

5 家の内外の安全チェック

家屋の耐震化、家具などの転倒防止策、家の中や外の整理整頓をしましょう。

6 非常持ち出し品・備蓄品のチェック

非常持ち出し品・備蓄品の食料や飲料水は賞味(消費)期限があります。定期的に確認しましょう。

7 家庭内備蓄品は「ローリングストック」で

普段の食事に利用する食材を多めに常備して、製造日の古いものから消費し、消費した分を新しく買い足し、いざというときのために備える方法です。



非常持ち出し品を常備しておきましょう

食料	救急・安全対策	貴重品
<input type="checkbox"/> 飲料水(1人1日2~3リットルを目安) <input type="checkbox"/> 非常食(缶詰、乾パン、レトルト食品など) <input type="checkbox"/> 携帯食(チョコレート、キャンディーなど) <input type="checkbox"/> 粉ミルク、哺乳瓶(赤ちゃんがいる場合)	<input type="checkbox"/> 常備薬(胃腸薬、かぜ薬など) <input type="checkbox"/> 包帯、ガーゼ、ばんそうこう <input type="checkbox"/> 傷薬、消毒薬 <input type="checkbox"/> 持病のある方の薬 <input type="checkbox"/> ヘルメット、防災ずきん <input type="checkbox"/> ホイッスル <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> 体温計・消毒液	<input type="checkbox"/> 現金(小銭) <input type="checkbox"/> 預貯金通帳、印鑑 <input type="checkbox"/> クレジットカード類 <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> 免許証など(身分を証明するもの)
日頃から、3日分の食料と飲料水を、非常備蓄品として常備しておきましょう。	<input type="checkbox"/> 衣類(厚手の物と薄い物) <input type="checkbox"/> 下着類 <input type="checkbox"/> タオル、毛布 <input type="checkbox"/> 手袋、軍手 <input type="checkbox"/> 寝袋 <input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> ポリ袋(ビニール袋) <input type="checkbox"/> 新聞紙 <input type="checkbox"/> ろうそく、ライター <input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー <input type="checkbox"/> ウエットティッシュ
	<input type="checkbox"/> 懐中電灯(予備電池) <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ(予備電池) <input type="checkbox"/> 携帯電話(充電器・バッテリー) <input type="checkbox"/> 筆記用具(油性マジック) <input type="checkbox"/> 洗面用具 <input type="checkbox"/> メガネ	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ <input type="checkbox"/> 紙おむつ・携帯トイレ <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 布ガムテープ <input type="checkbox"/> ロープ <input type="checkbox"/> 地図(ハザードマップ)

風水害への備え

台風や大雨などによる被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。

外壁

- モルタルの壁に亀裂はありませんか

屋根・雨どい

- 不安定なアンテナはありませんか
- トタンがめくれていませんか
- 瓦のひび・割れ・はがれはありませんか
- 雨どいにゴミや木の葉は溜まっていませんか

ベランダ

- 植木鉢や物干し竿など、落下や飛散の危険はありませんか

ブロック

- 傾きやひび割れ、破損している箇所はありませんか

排水溝

- 側溝や雨水ますにゴミや土砂はありませんか

窓

- 窓枠ががたつきはありませんか
- 雨戸ががたつきはありませんか

板塀

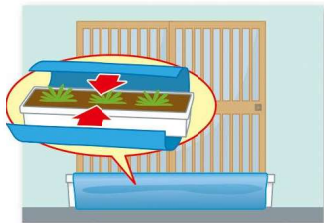
- 板塀に腐りや浮きはありますか
- 板塀に支柱はありますか

その他

- ガスボンベ(プロパンガス等)は固定されていますか
- 庭木には添え木をしていますか
- ゴミ箱や植木鉢などは、飛ばないように固定していますか
- 商店などでは看板のぐらつきはありませんか
- 窓ガラスが飛散しないような対策をしていますか

家庭でできる簡易水防

浸水が浅い場合には、土のう(無い場合は水のう)を設置することで、水が建物へ浸入するのを防げます。簡易的な措置として、植栽用プランターや石油用ポリタンク、長めの板(はしごやテーブルでも可)などを、ビニールシートで包んで設置してもよいでしょう。道路よりも建物が低い場合や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておく、より効果的です。



簡易水防工法例①
プランター+ビニールシート

土を入れたプランターをビニールシートで巻き込んだものを使用し、浸水を防ぎます。



簡易水防工法例②
簡易水のう+止水板

簡易水のうを作り、長めの板などと組み合わせ、出入口に設置し、浸水を防ぎます。

「簡易水のう」の作り方

家庭で使用しているごみ袋(40リットル程度の容量)を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。

風が強いとき、大雨のとき、どうすればいいのか

毎年のように台風や集中豪雨によって浸水や土砂災害などの被害が発生しています。しかし、地震と違い、風水害はある程度事前に発生を予測することができます。危険が迫ったら早めに対応しましょう。雨風が強まってきたら、まずテレビやラジオ、インターネット等で発表される気象庁からの注意報・警報・特別警報や、町からの避難に関する情報に注意しましょう。不要不急の外出は控え、危険な場所には近づかないようにしましょう。

風が強いとき



室内では…

- 風圧や飛来物で、窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。
- 外側から板でふさいだり、内側から養生テープを×印に貼り、カーテンを引いておきましょう。



路上では…

- 看板が飛んだり、街路樹が倒れたりする危険があるので、近くの頑丈な建物の中に避難しましょう。



海辺では…

- 海中への転落や高波に巻き込まれる危険があります。沿岸に近づかないようにしましょう。
- 強風、豪雨時はサイレンなどの警報が聞こえづらくなりますので十分に注意しましょう。

大雨のとき



室内では…

- 豪雨の際は、床下・床上浸水の危険があります。家財道具や貴重品を高い場所に移動しておきましょう。
- 地下には避難しないようにしましょう。



車の運転中は…

- 豪雨で視界が悪くなると非常に危険です。あせらずに安全な場所に移動しましょう。
- 浸水でエンストしたときは、無理に再始動させるとエンジンを傷めてしまいます。

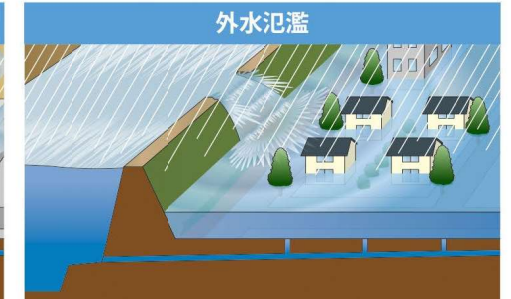
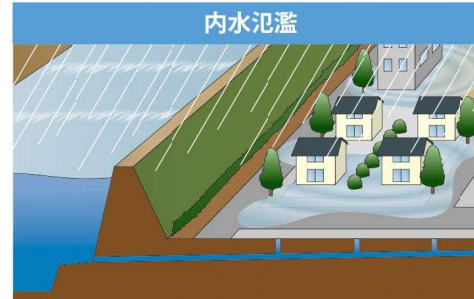


河原では…

- 急な増水や土砂災害の危険があるので、河川敷から堤防の外に移動しましょう。
- 今いる場所で雨が降ってなくても、サイレンなどの警報が聞こえたらすぐに避難してください。

内水氾濫と外水氾濫

水害には、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなることにより起こる氾濫(内水氾濫)と、川の堤防が壊れたり、水があふれたりして発生する氾濫(外水氾濫)があります。まずは、水害の発生するしくみを理解して、避難場所等まで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。



その場で雨が降ってなくても、川の上流で降った大雨により、下流で氾濫が発生することがあります。

雨の強さ、降り方と災害の危険性等

1時間雨量と予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
	10~20mm未満	20~30mm未満	30~50mm未満	50~80mm未満	80mm以上
人の受けるイメージ	●ザーザーと降る。	●どしゃ降り。	●バケツをひっくり返したように降る。	●滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	●息苦しくなるような圧迫感がある。 ●恐怖を感じる。
人への影響と屋外の様子	●地面からはね返り足もとがぬれる。	●傘をさしていてもぬれる。 ●車の場合、ワイパーを速くしても見づらい。	●道路が川のようになる。	●傘はまったく役に立たなくなる。 ●水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	
災害の危険性	●この程度の雨でも、長く続くときは注意が必要。	●側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。 ●小規模のがけ崩れのおそれがある。	●山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難が必要。	●土石流が起こりやすい。 ●多くの災害が発生する。	●雨による大規模な災害の発生のおそれが強く、厳重な警戒が必要。

表に示した雨量と同じであっても、降り始めからの総雨量の違い、地形や地質等の違いによって被害の様子は異なることがあります。この表では、ある雨量が観測された際に通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

洪水時の避難情報発令の目安

河川の水位が上昇して洪水のおそれがあるとき、避難情報を発令します。各避難情報は、各河川で定められた水位の基準に達するなどの状況から判断し、発令します。



大雨時の情報

下記のような場合、気象庁から「注意報」「警報」が発表されます。さらに、警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、「特別警報」が発表され、最大限の警戒を呼び掛けます。
※「特別警報」が発表されない場合でも、甚大な被害が発生する可能性があります。

大雨・洪水注意報	大雨・洪水警報	大雨特別警報
災害が発生するおそれがある	重大な災害が発生するおそれがある	「警報」よりも、はるかに高い危険度
大雨 大雨により、浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。	大雨 大雨により、 重大な浸水災害や重大な土砂災害 などが発生するおそれがあると予想したときに発表。	大雨 台風や集中豪雨により 数十年に一度の降雨量 となる大雨を予想したときに発表。
洪水 大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による 災害 が発生するおそれがあると予想したときに発表。	洪水 大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による 重大な災害 が発生するおそれがあると予想したときに発表。	「洪水」は、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

記録的短時間大雨情報

数年に一度しかないような、短時間の猛烈な雨が観測された場合には、気象庁から、「記録的短時間大雨情報」が発表されます。この情報が発表された地域では、周囲の状況や雨の降り方に注意し、少しでも危険を感じた時はすぐに安全な場所へ避難しましょう。

避難の心得

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定された場合には、情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。

 状況により、すばやく避難しましょう 避難の準備を心がけ、町からの指示があれば、素早く避難しましょう。	 外出中の家族には連絡メモを残そう 「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくとうれいでしょう。
 住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持とう 特に高齢者や子どもは、事前に防災メモを用意し、身につけて避難しましょう。	 集団で避難しましょう 単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。
 車での避難は控えて 車は、約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は注意しましょう。	 できるだけ安全なルートで避難しましょう 川べり、地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。
 非常持ち出し品は最小限に 非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。	 避難所等では係の人の指示に従いましょう 指定避難所に着いたら、住所、氏名などを報告しましょう。

感染症対策

大勢の人が集まる避難所では、新型コロナウイルスに限らず、感染症にかからないようつさきないように対策することが重要です。そのため、マスクや消毒液、体温計のほか、除菌ウエットティッシュなどを非常持ち出し品としてご用意ください。



土砂災害の種類と前兆現象

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ、がけ崩れや土石流、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。下に示すような前兆現象を確認したら、速やかに避難するとともに、湧水町役場へご連絡ください。

土砂災害の種類には大きく分けて3つのタイプがあります。自分の周りではどのタイプの土砂災害が発生するのかわかり確認しておきましょう。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。

土石流

大雨や集中豪雨などによって、山や川の石と砂が水と一体となって一気に下流へ押し流される現象です。崩壊土砂により河川をせき止める場合があります。

地すべり

大雨や長雨等により雨水が地面にしみこみ、地面が広い範囲にわたりゆっくりと動きだすものをいいます。ゆっくり動き出すため避難が遅れる場合があります。

！ こんなときは要注意 土砂災害の前ぶれ(前兆現象)

五感	移動主体	がけ崩れ	土石流	地すべり
視	山・斜面・がけ	<ul style="list-style-type: none"> がけに割れ目が見える。 がけから小石がパラパラと落ちる。 斜面がはらみだす。 	<ul style="list-style-type: none"> 溪流付近の斜面が崩れだす。 落石が生じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地面にひび割れができる。 地面の一部が落ち込んだり盛り上がったたりする。
	水	<ul style="list-style-type: none"> 表面流が生じる。 がけから水が噴き出す。 湧水が濁りだす。 	<ul style="list-style-type: none"> 川の水が異常に濁る。 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。 土砂の流出。 	<ul style="list-style-type: none"> 沢や井戸の水が濁る。 斜面から水が噴き出す。 池や沼の水がさが急減する。
	樹木	<ul style="list-style-type: none"> 樹木が傾く。 	<ul style="list-style-type: none"> 濁水に流木が混じりだす。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹木が傾く。
音		<ul style="list-style-type: none"> 樹木の根が切れる音がする。 樹木の揺れる音がする。 地鳴りがする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地鳴りがする。 山鳴りがする。 転石のぶつかり合う音。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹木の根が切れる音がする。
におい			<ul style="list-style-type: none"> 腐った土のにおいがする。 	

※上記は一般的な前ぶれです。すべての場所において必ず起きるというものではありません。

土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は、大雨警報の発表中に、土砂災害発生危険度が高まったとき、鹿児島県と鹿児島地方気象台が共同で発表する情報です。



土砂災害警戒情報が発表されたら、土砂災害に厳重に警戒してください。また、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあるため、その他の防災情報や土砂災害の前兆現象などにも十分注意しながら、早めに避難行動をとってください。

土砂災害の危険度情報は、鹿児島県がインターネットで公開している「鹿児島県河川砂防情報システム」で確認することができます。以下のURLからご確認ください。

<http://www3.doboku-bousai.pref.kagoshima.jp/bousai/jsp/index.jsp>

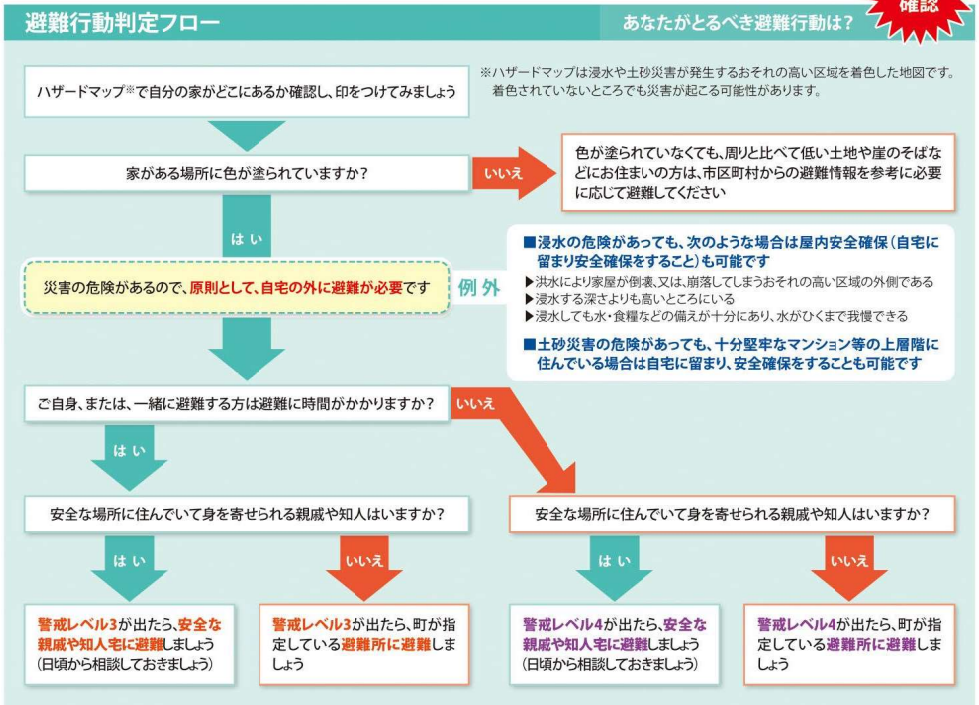
鹿児島県 河川 土砂 検索



避難行動判定フローを確認しましょう

「避難行動判定フロー」をこのハザードマップとあわせて確認し、居住する地域の災害リスクや住宅の条件等を考慮したうえでとるべき避難行動や適切な避難先を確認しておきましょう。

平時に確認



台風や大雨が発生するおそれがあるときには、P.9～10のマイ・タイムラインを活用し、どのような備えが必要か、事前に確認するようにしてください。

避難行動(立退き避難・屋内安全確保と緊急安全確保)

水害や土砂災害の避難行動は、ためらわず災害リスクのない安全な場所へ早めに「立退き避難」することが基本です。また、浸水しない自宅の上階への避難や上層階に留まる「屋内安全確保」により身の安全を確保することも有効です。立退き避難を行う必要があるにもかかわらず、適切なタイミングで避難することができなかった場合などは、少しでも浸水しにくい高い場所やがけから離れた場所に避難し、身の安全を可能な限り確保する「緊急安全確保」を行ってください。

計画的な避難行動

立退き避難

● 避難行動の基本です。

屋内安全確保

← 想定浸水高さ

● 長時間の孤立に備え、水、食料などを備蓄しておきましょう。

緊急的な避難行動

緊急安全確保

- 逃げ遅れた場合の行動です。
- 身の安全を確保できるとは限りません。

洪水・土砂災害ハザードマップについて

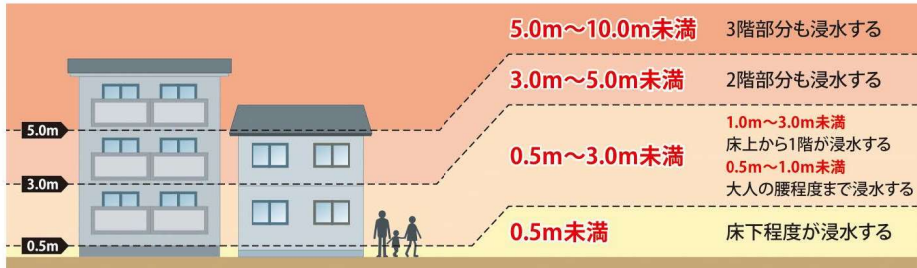
この洪水・土砂災害ハザードマップに示す浸水想定区域は、国が作成した浸水想定区域図の結果を示しています。浸水想定区域は、川内川水系(国・平成28年6月)を対象として、以下の2種類の解析が実施されています。

計画規模降雨:12時間総雨量286mm (P.13~34)
 従来より洪水対策の目標とされていた100年に1度程度発生するとされる計画規模の降雨に基づく解析

想定最大規模降雨:12時間総雨量455mm (P.35~36)
 計画規模に比べ発生頻度は著しく低い、学術的に想定し得る最大規模の降雨に基づく解析

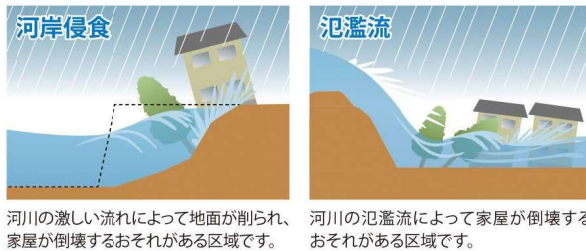
浸水深の目安

浸水深マップで色分けされた、浸水の深さの目安です。



家屋倒壊等氾濫想定区域

洪水時に、家屋の倒壊・流失をもたらすような激しい流れが発生するおそれがある、堤防沿いの地域を「家屋倒壊等氾濫想定区域」として設定しています。この区域では、自宅等が倒壊するおそれがあることから、浸水区域外への**早期の立退き避難**が必要です。



土砂災害(特別)警戒区域

<土砂災害警戒区域>

土砂災害により、住民の生命または身体に危害が生じるおそれのある区域です。

<土砂災害特別警戒区域>

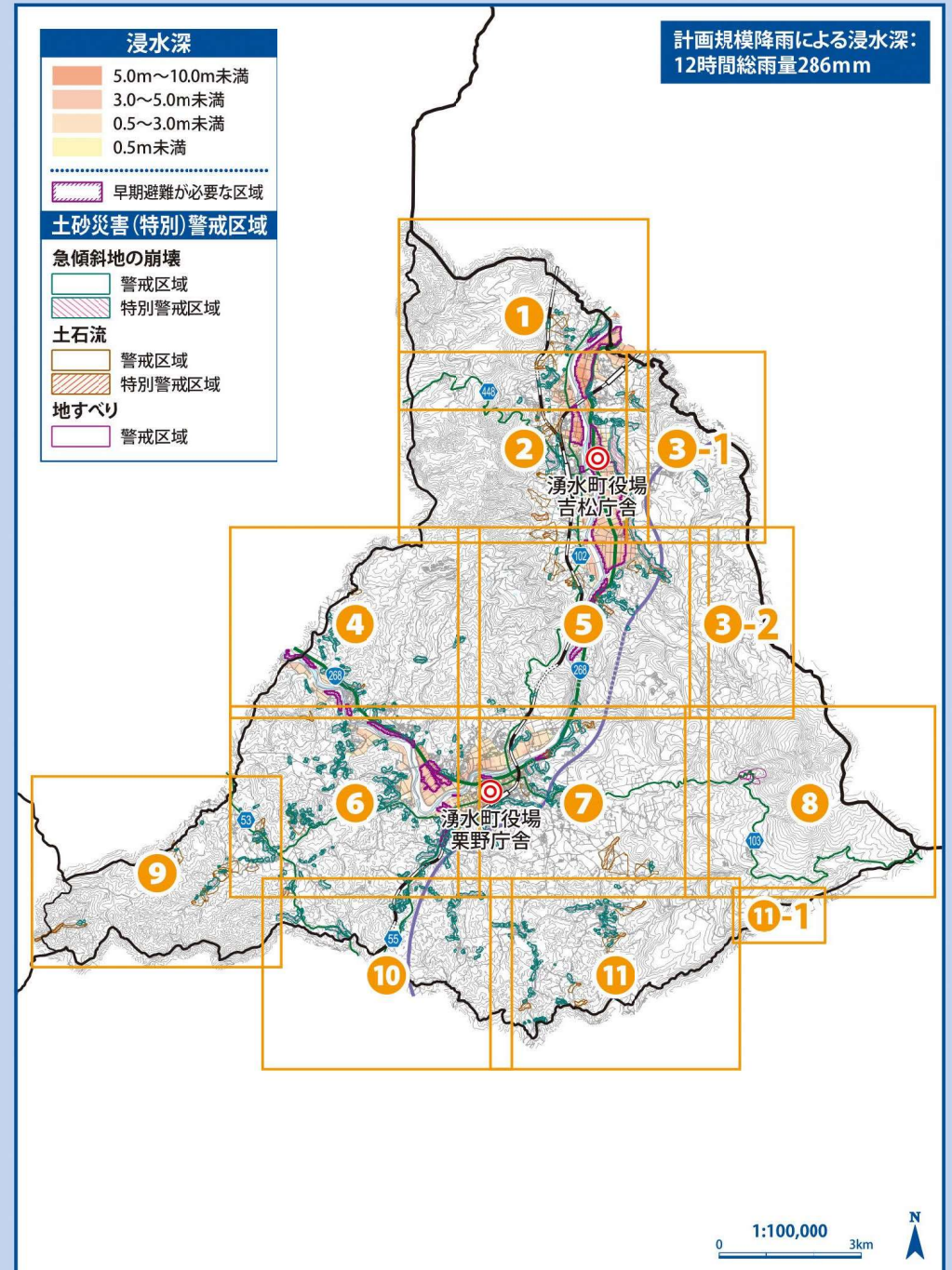
土砂災害により、建築が破壊され、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれのある区域です。

土砂災害から身を守るポイント

- 1 住んでいる場所が「土砂災害(特別)警戒区域」かどうか確認してください。
- 2 雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意してください。
- 3 危険を感じたら早めに避難してください。

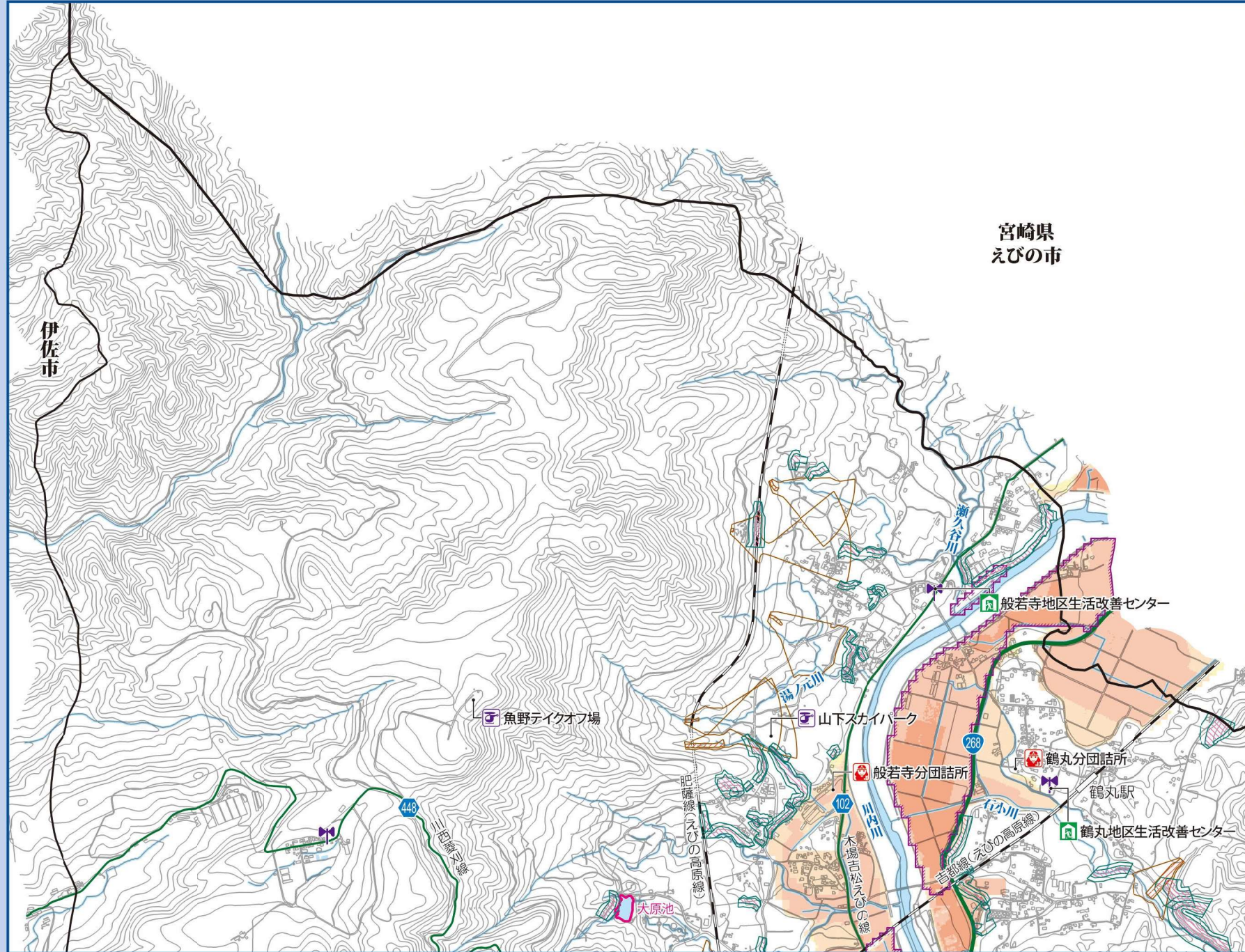


洪水・土砂災害ハザードマップ索引図



洪水・土砂災害ハザードマップ

計画規模降雨による浸水深：12時間総雨量286mm



1



凡例

- 避難所
- 状況により洪水時使用不可
- 状況により土砂災害時使用不可
- 行政施設
- 警察
- 消防
- 水位観測所
- 雨量観測所
- ヘリポート
- 防災行政無線
- 防災重点ため池
- 国道
- 県道
- 高速道路
- JR

浸水深

- 5.0m～10.0m未満
- 3.0～5.0m未満
- 0.5～3.0m未満
- 0.5m未満

早期避難が必要な区域

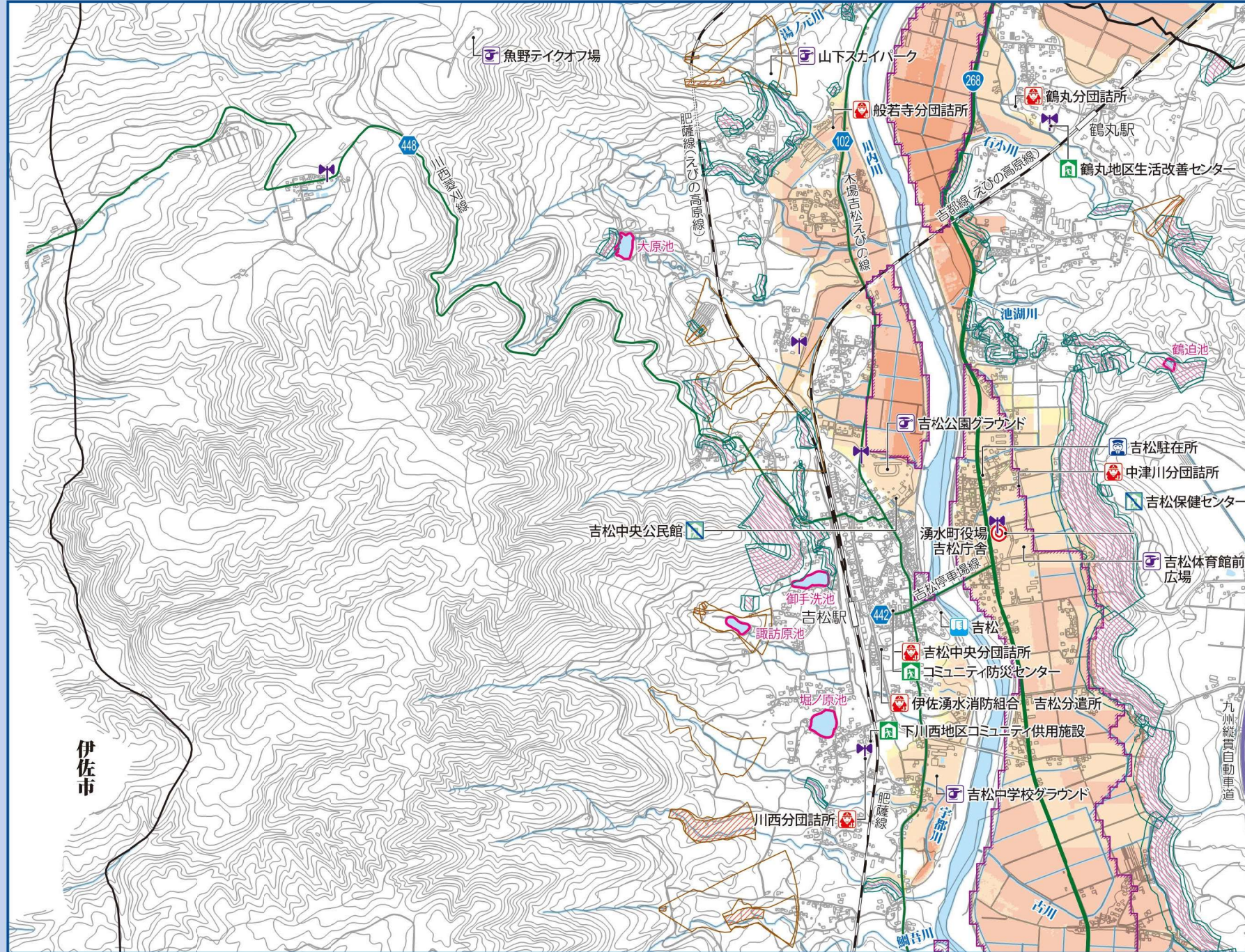
土砂災害(特別)警戒区域

- 急傾斜地の崩壊
- 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 土石流
- 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 地すべり
- 警戒区域

1:15,000
0 500m

洪水・土砂災害ハザードマップ

計画規模降雨による浸水深：12時間総雨量286mm



2



凡例

- 避難所
- 状況により洪水時使用不可
- 状況により土砂災害時使用不可
- 行政施設
- 警察
- 消防
- 水位観測所
- 雨量観測所
- ヘリポート
- 防災行政無線
- 防災重点ため池
- 国道
- 県道
- 高速道路
- JR

浸水深

- 5.0m～10.0m未満
- 3.0～5.0m未満
- 0.5～3.0m未満
- 0.5m未満

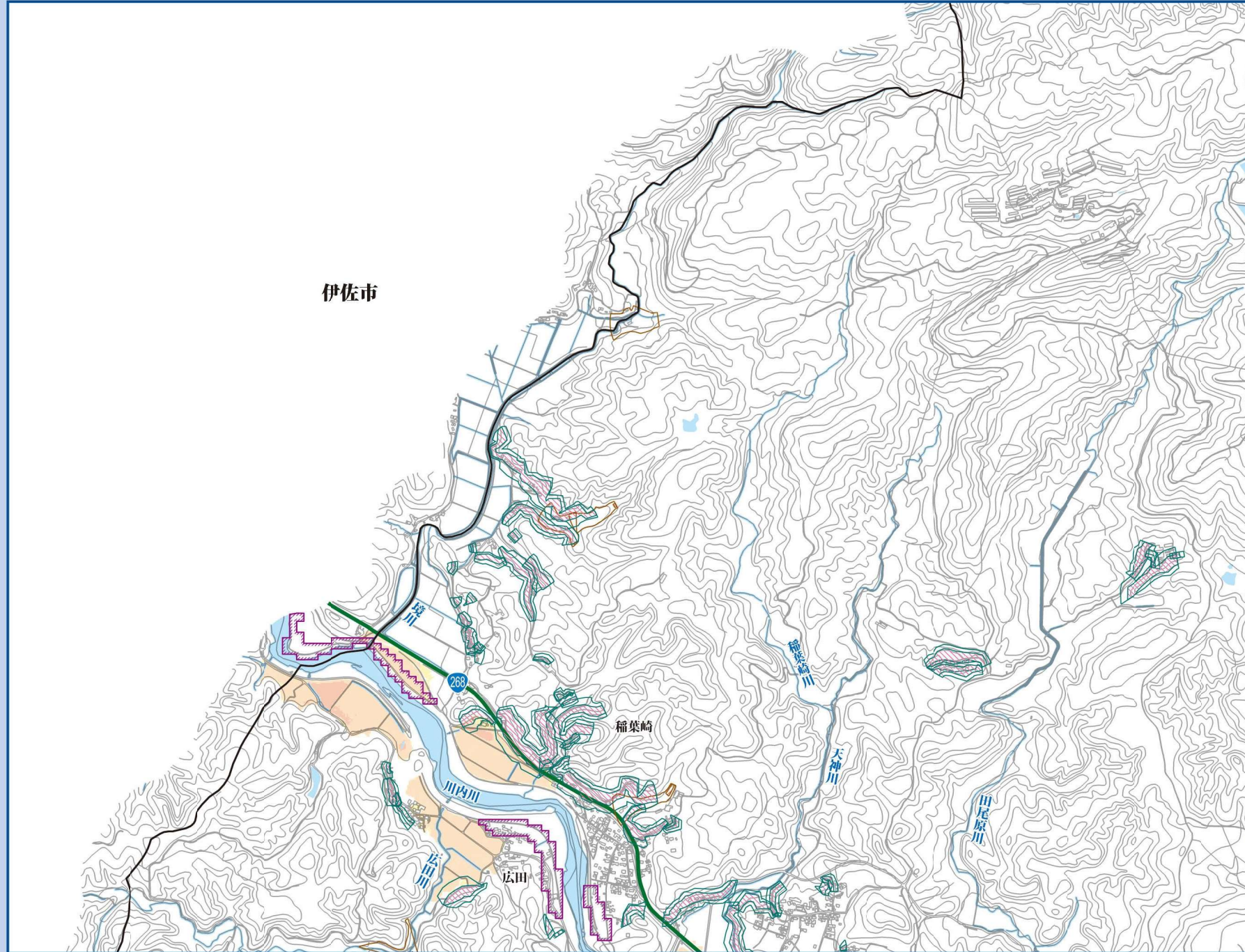
早期避難が必要な区域

土砂災害(特別)警戒区域

- 急傾斜地の崩壊
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 土石流
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 地すべり
 - 警戒区域



伊佐市



4



凡例

- 避難所
- 状況により洪水時使用不可
- 状況により土砂災害時使用不可
- 行政施設
- 警察
- 消防
- 水位観測所
- 雨量観測所
- ヘリポート
- 防災行政無線
- 防災重点ため池
- 国道
- 県道
- 高速道路
- JR

浸水深

- 5.0m~10.0m未満
- 3.0~5.0m未満
- 0.5~3.0m未満
- 0.5m未満

早期避難が必要な区域

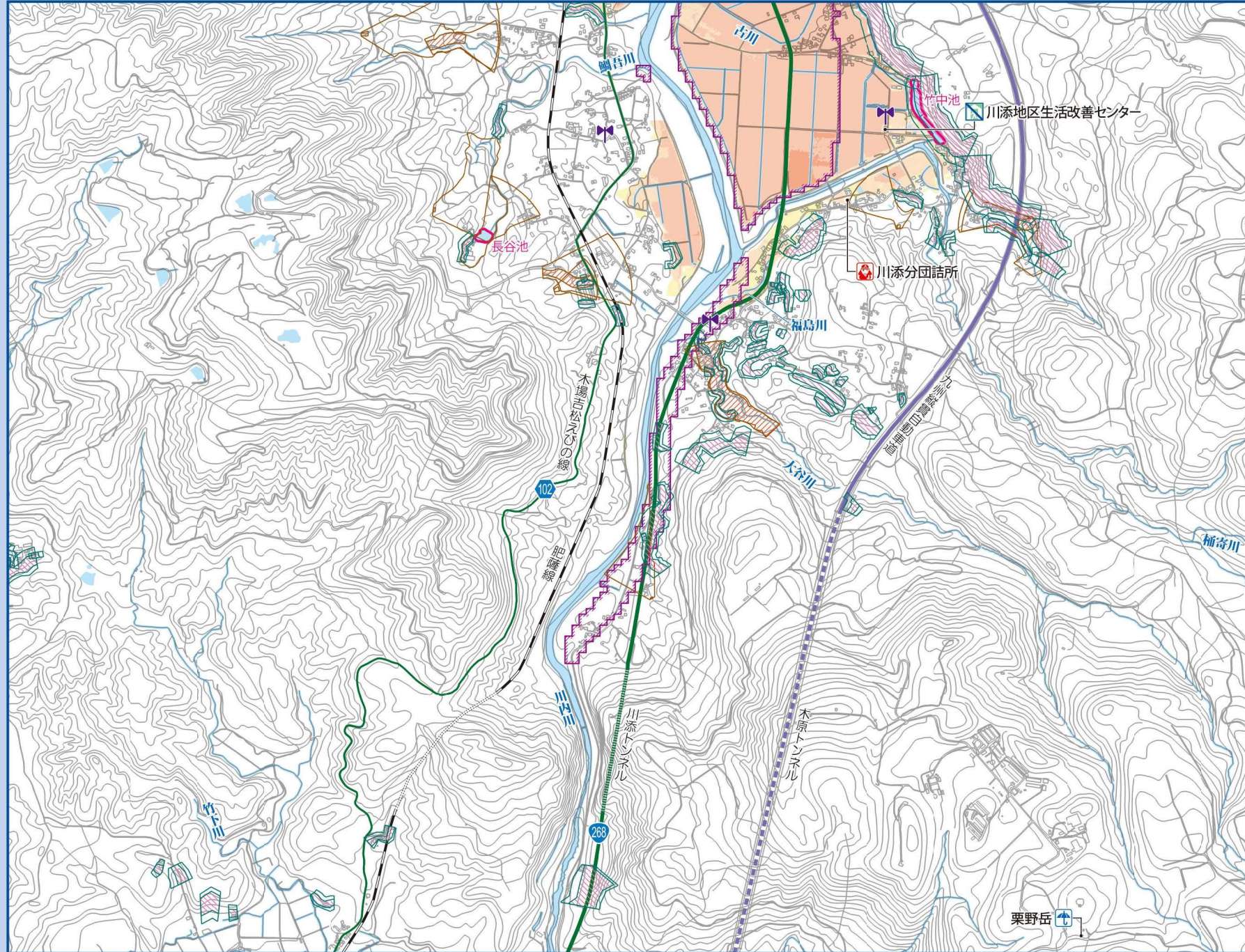
土砂災害(特別)警戒区域

- 急傾斜地の崩壊
- 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 土石流
- 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 地すべり
- 警戒区域



洪水・土砂災害ハザードマップ

計画規模降雨による浸水深：12時間総雨量286mm



5



凡例

- 避難所
- 状況により洪水時使用不可
- 状況により土砂災害時使用不可
- 行政施設
- 警察
- 消防
- 水位観測所
- 雨量観測所
- ヘリポート
- 防災行政無線
- 防災重点ため池
- 国道
- 県道
- 高速道路
- JR

浸水深

- 5.0m～10.0m未満
- 3.0～5.0m未満
- 0.5～3.0m未満
- 0.5m未満

早期避難が必要な区域

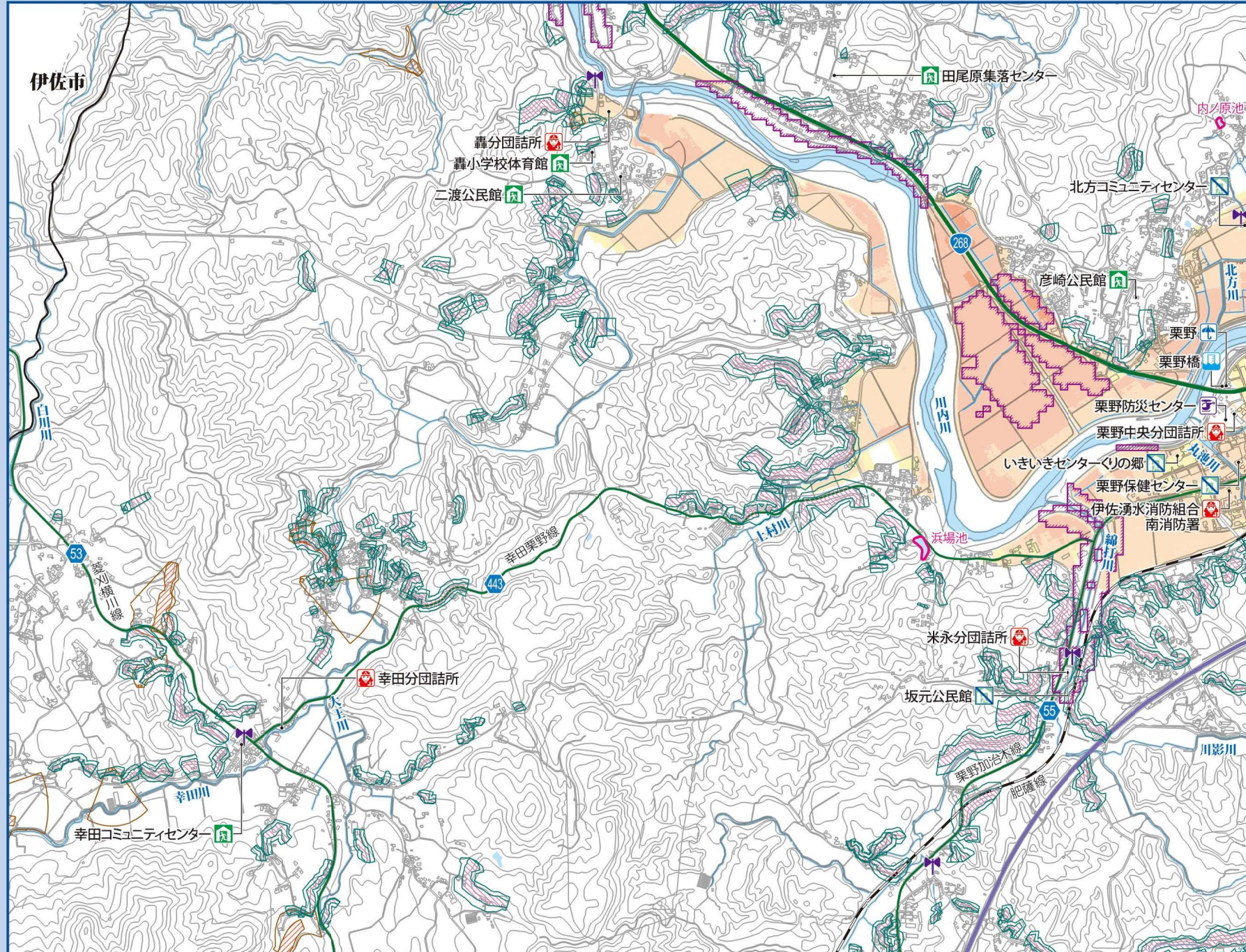
土砂災害(特別)警戒区域

- 急傾斜地の崩壊
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 土石流
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 地すべり
 - 警戒区域



洪水・土砂災害ハザードマップ

計画規模降雨による浸水深：12時間総雨量286mm



6



凡例

- 避難所
- 状況により洪水時使用不可
- 状況により土砂災害時使用不可
- 行政施設
- 警察
- 消防
- 水位観測所
- 雨量観測所
- ヘリポート
- 防災行政無線
- 防災重点ため池
- 国道
- 県道
- 高速道路
- JR

浸水深

- 5.0m～10.0m未満
- 3.0～5.0m未満
- 0.5～3.0m未満
- 0.5m未満

早期避難が必要な区域

土砂災害(特別)警戒区域

- 急傾斜地の崩壊
- 警戒区域
 - 特別警戒区域

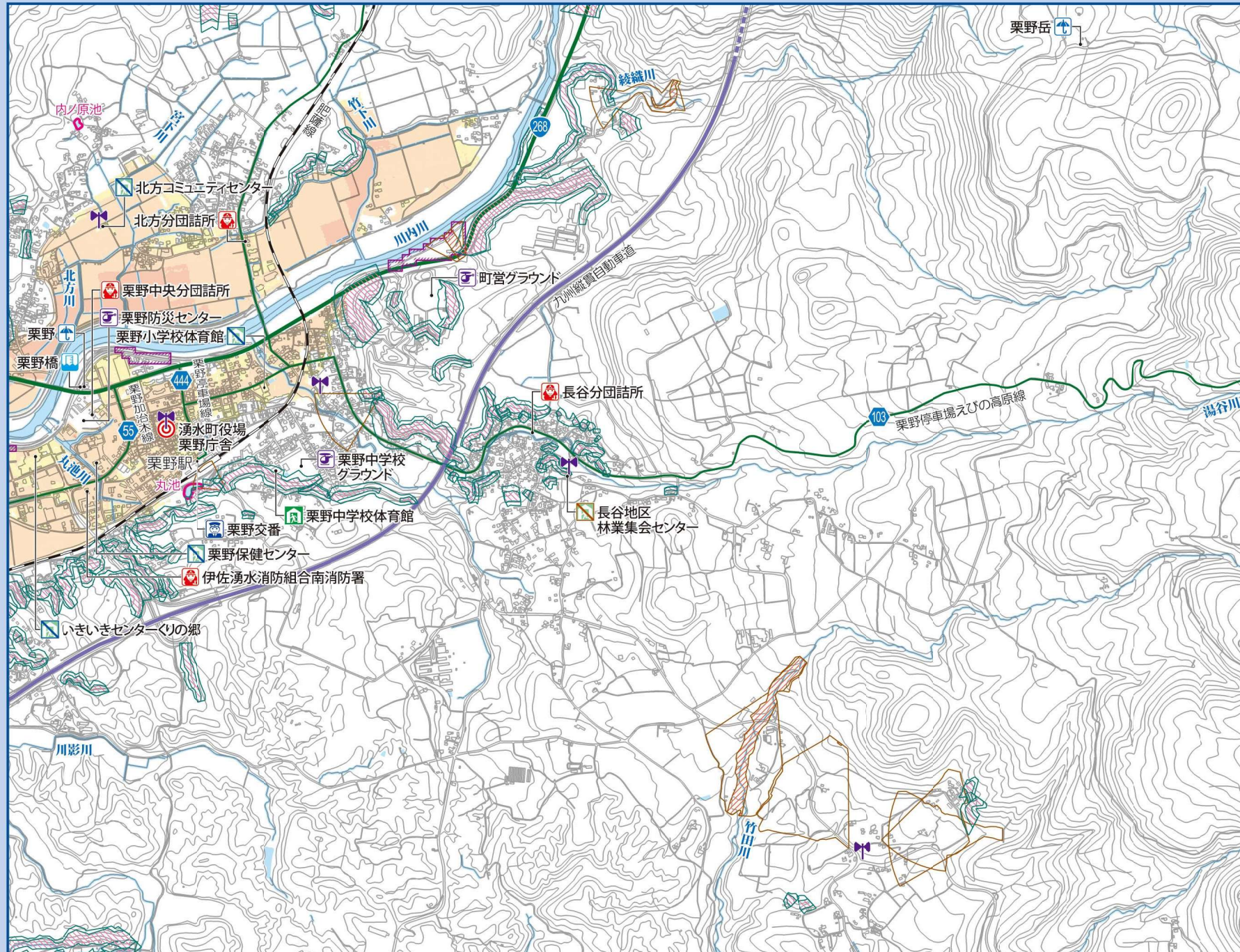
- 土石流
- 警戒区域
 - 特別警戒区域

- 地すべり
- 警戒区域



洪水・土砂災害ハザードマップ

計画規模降雨による浸水深：12時間総雨量286mm



7



凡例

- 避難所
- 状況により洪水時使用不可
- 状況により土砂災害時使用不可
- 行政施設
- 警察
- 消防
- 水位観測所
- 雨量観測所
- ヘリポート
- 防災行政無線
- 防災重点ため池
- 国道
- 県道
- 高速道路
- JR

浸水深

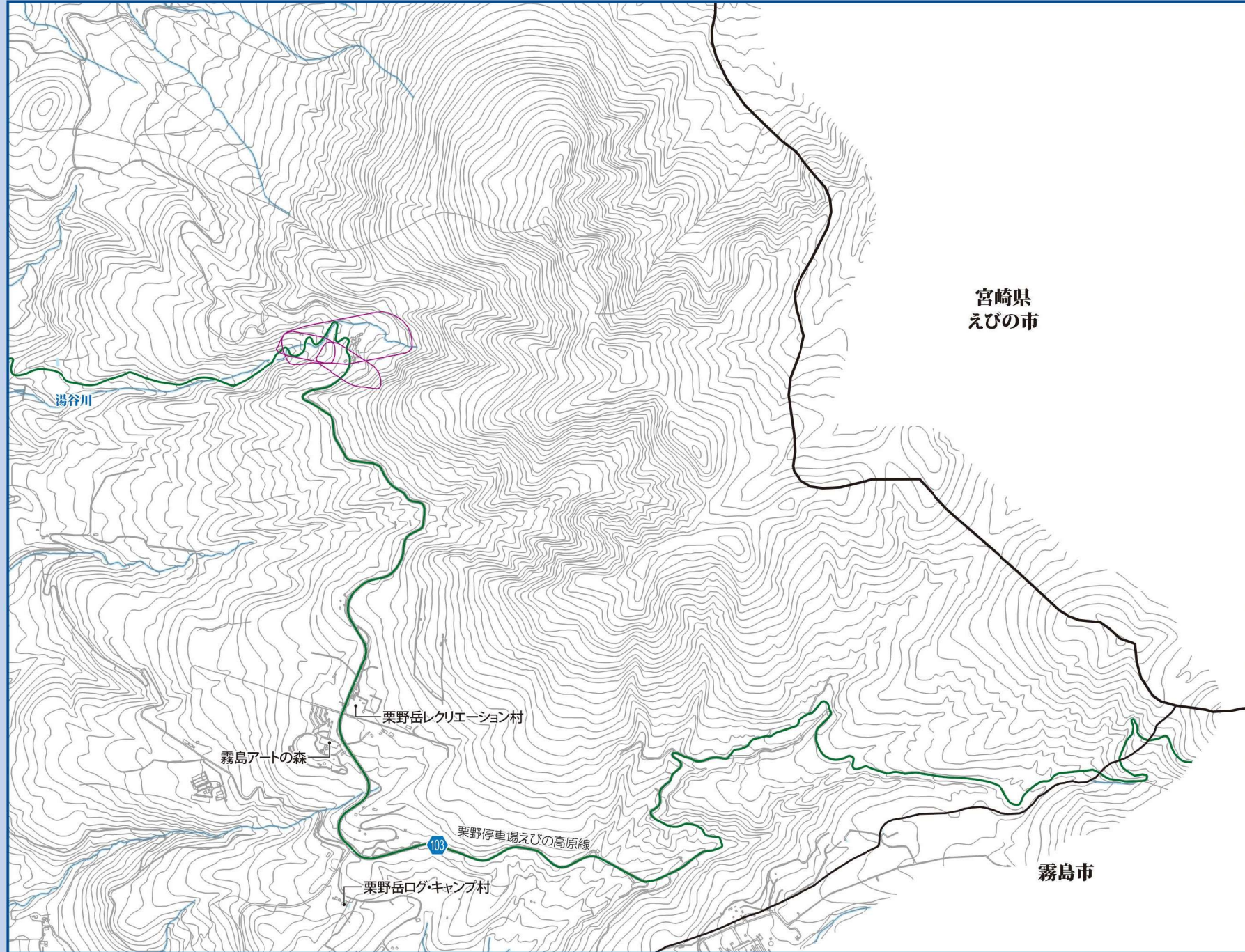
- 5.0m～10.0m未満
- 3.0～5.0m未満
- 0.5～3.0m未満
- 0.5m未満

早期避難が必要な区域

土砂災害(特別)警戒区域

- 急傾斜地の崩壊
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 土石流
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 地すべり
 - 警戒区域





8



凡例

- 避難所
- 状況により洪水時使用不可
- 状況により土砂災害時使用不可
- 行政施設
- 警察
- 消防
- 水位観測所
- 雨量観測所
- ヘリポート
- 防災行政無線
- 防災重点ため池
- 国道
- 県道
- 高速道路
- JR

浸水深

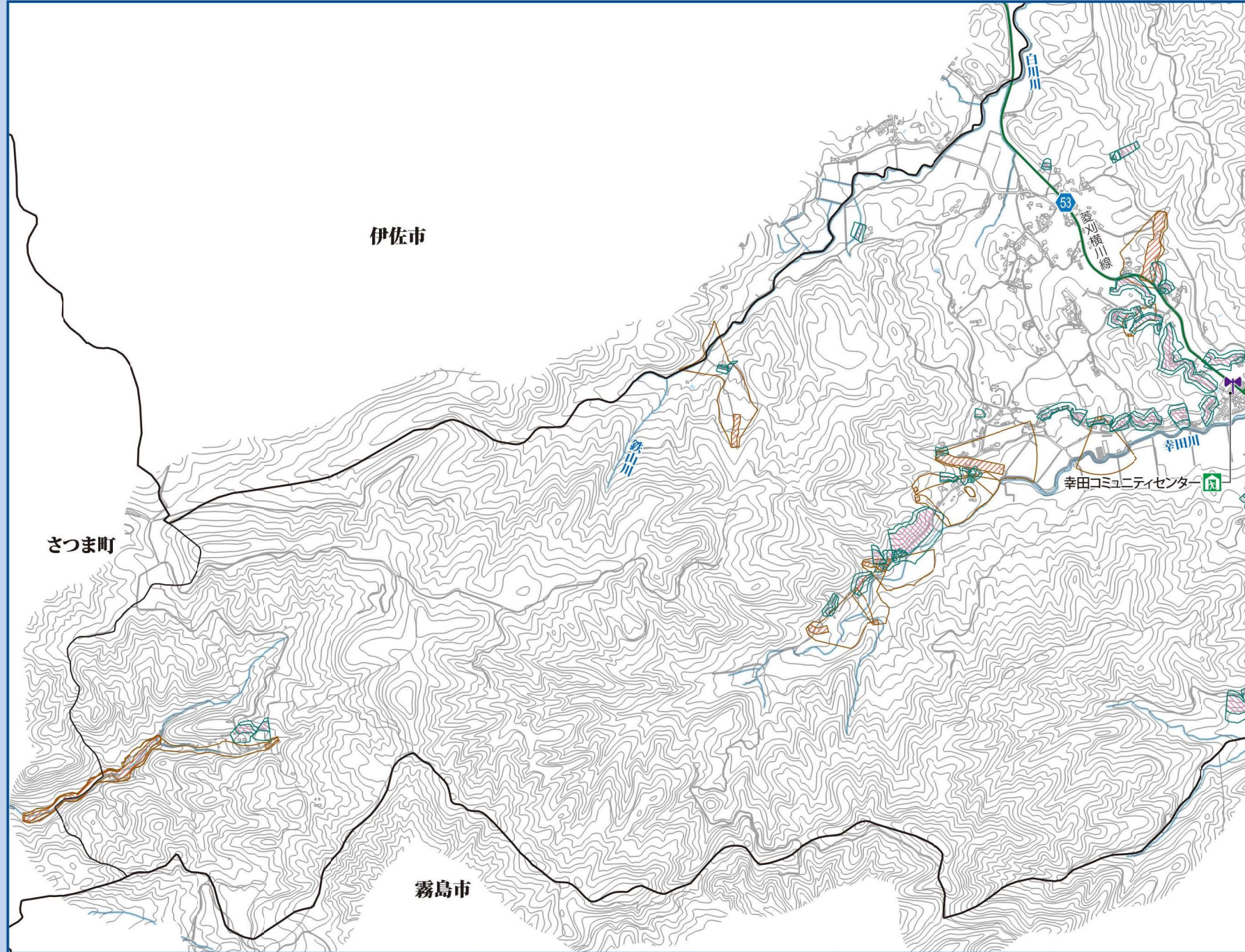
- 5.0m～10.0m未満
- 3.0～5.0m未満
- 0.5～3.0m未満
- 0.5m未満

- 早期避難が必要な区域

土砂災害(特別)警戒区域

- 急傾斜地の崩壊
- 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 土石流
- 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 地すべり
- 警戒区域





9



凡例

- 避難所
- 状況により洪水時使用不可
- 状況により土砂災害時使用不可
- 行政施設
- 警察
- 消防
- 水位観測所
- 雨量観測所
- ヘリポート
- 防災行政無線
- 防災重点ため池
- 国道
- 県道
- 高速道路
- JR

浸水深

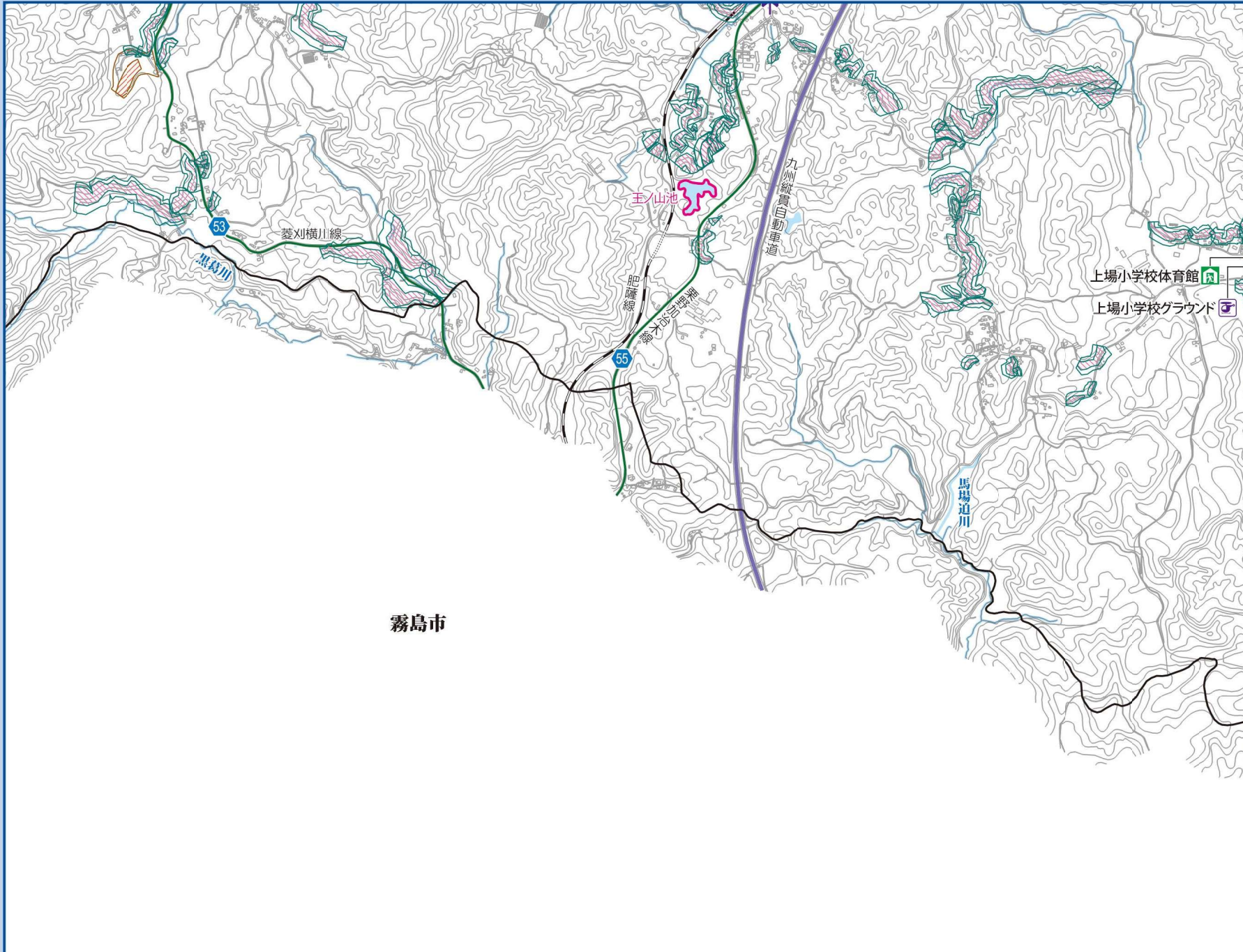
- 5.0m～10.0m未満
- 3.0～5.0m未満
- 0.5～3.0m未満
- 0.5m未満

早期避難が必要な区域

土砂災害(特別)警戒区域

- 急傾斜地の崩壊**
- 警戒区域
- 特別警戒区域
- 土石流**
- 警戒区域
- 特別警戒区域
- 地すべり**
- 警戒区域





霧島市

10



凡例

- 避難所
- 状況により洪水時使用不可
- 状況により土砂災害時使用不可
- 行政施設
- 警察
- 消防
- 水位観測所
- 雨量観測所
- ヘリポート
- 防災行政無線
- 防災重点ため池
- 国道
- 県道
- 高速道路
- JR

浸水深

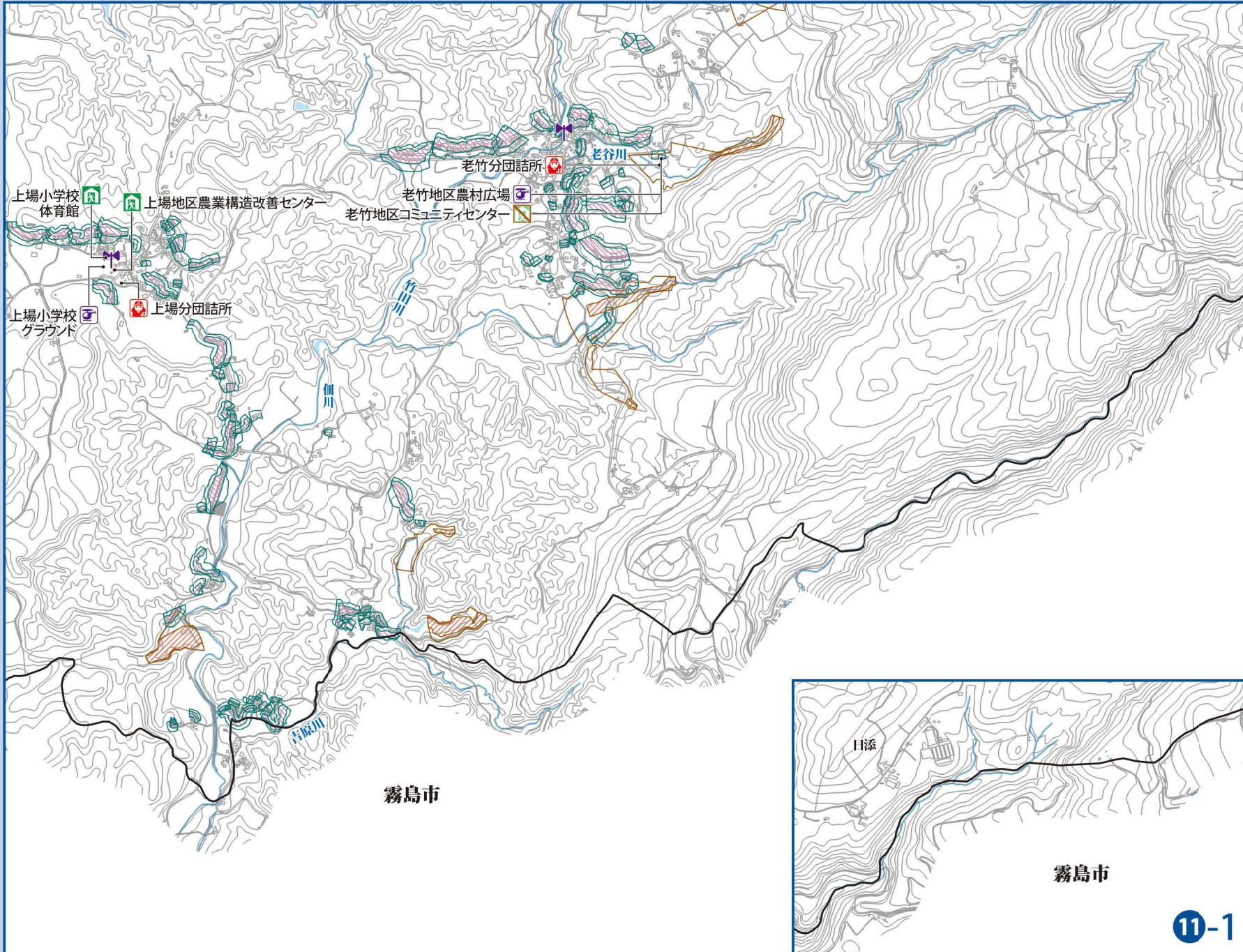
- 5.0m～10.0m未満
- 3.0～5.0m未満
- 0.5～3.0m未満
- 0.5m未満

早期避難が必要な区域

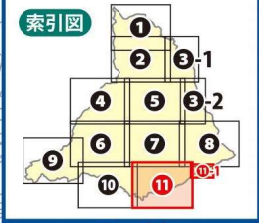
土砂災害(特別)警戒区域

- 急傾斜地の崩壊
- 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 土石流
- 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 地すべり
- 警戒区域





11



凡例

- 避難所
- 状況により洪水時使用不可
- 状況により土砂災害時使用不可
- 行政施設
- 警察
- 消防
- 水位観測所
- 雨量観測所
- ヘリポート
- 防災行政無線
- 防災重点ため池
- 国道
- 県道
- 高速道路
- JR

浸水深

- 5.0m~10.0m未満
- 3.0~5.0m未満
- 0.5~3.0m未満
- 0.5m未満

早期避難が必要な区域

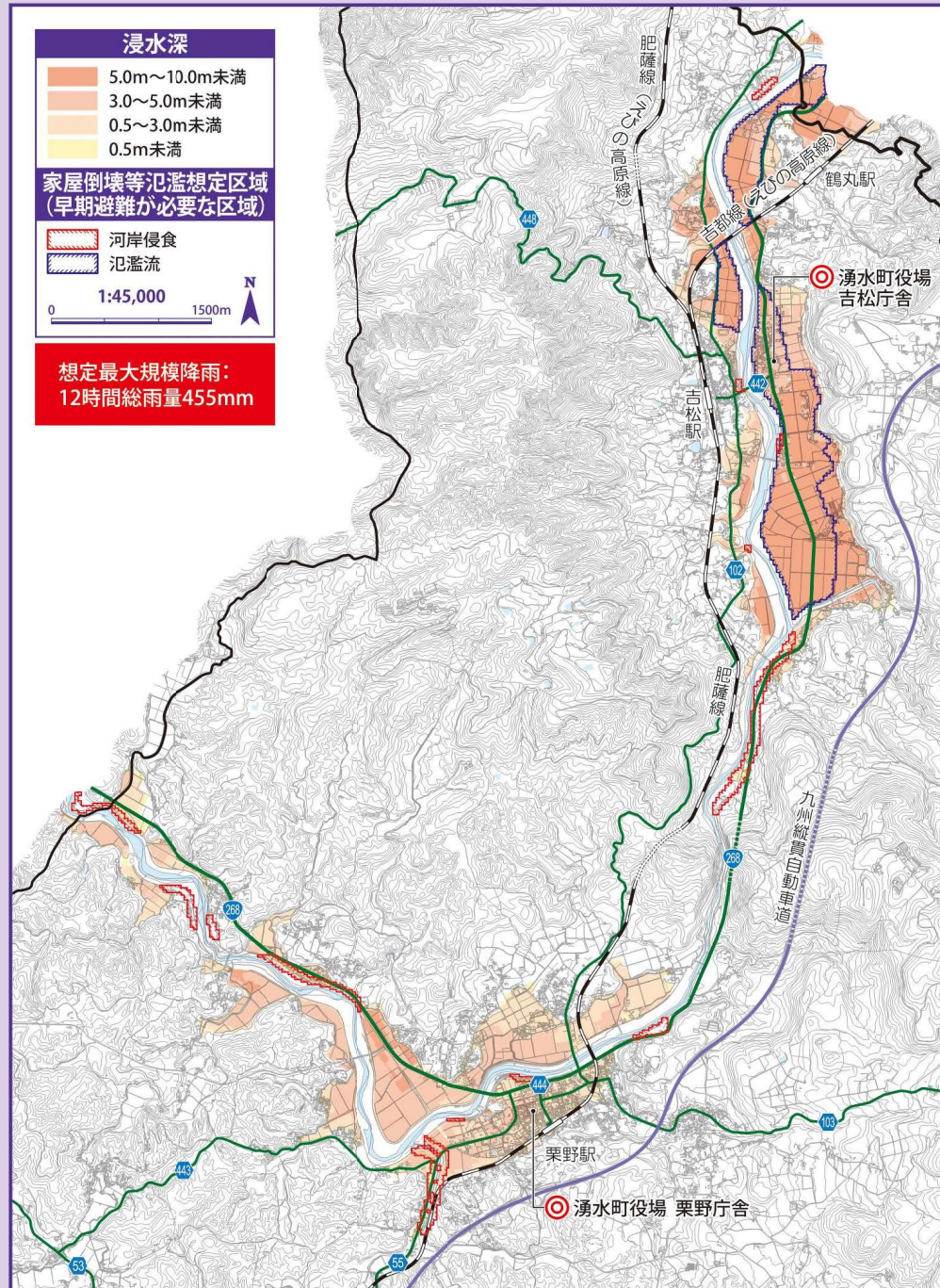
土砂災害(特別)警戒区域

- 急傾斜地の崩壊**
- 警戒区域
- 特別警戒区域
- 土石流**
- 警戒区域
- 特別警戒区域
- 地すべり**
- 警戒区域

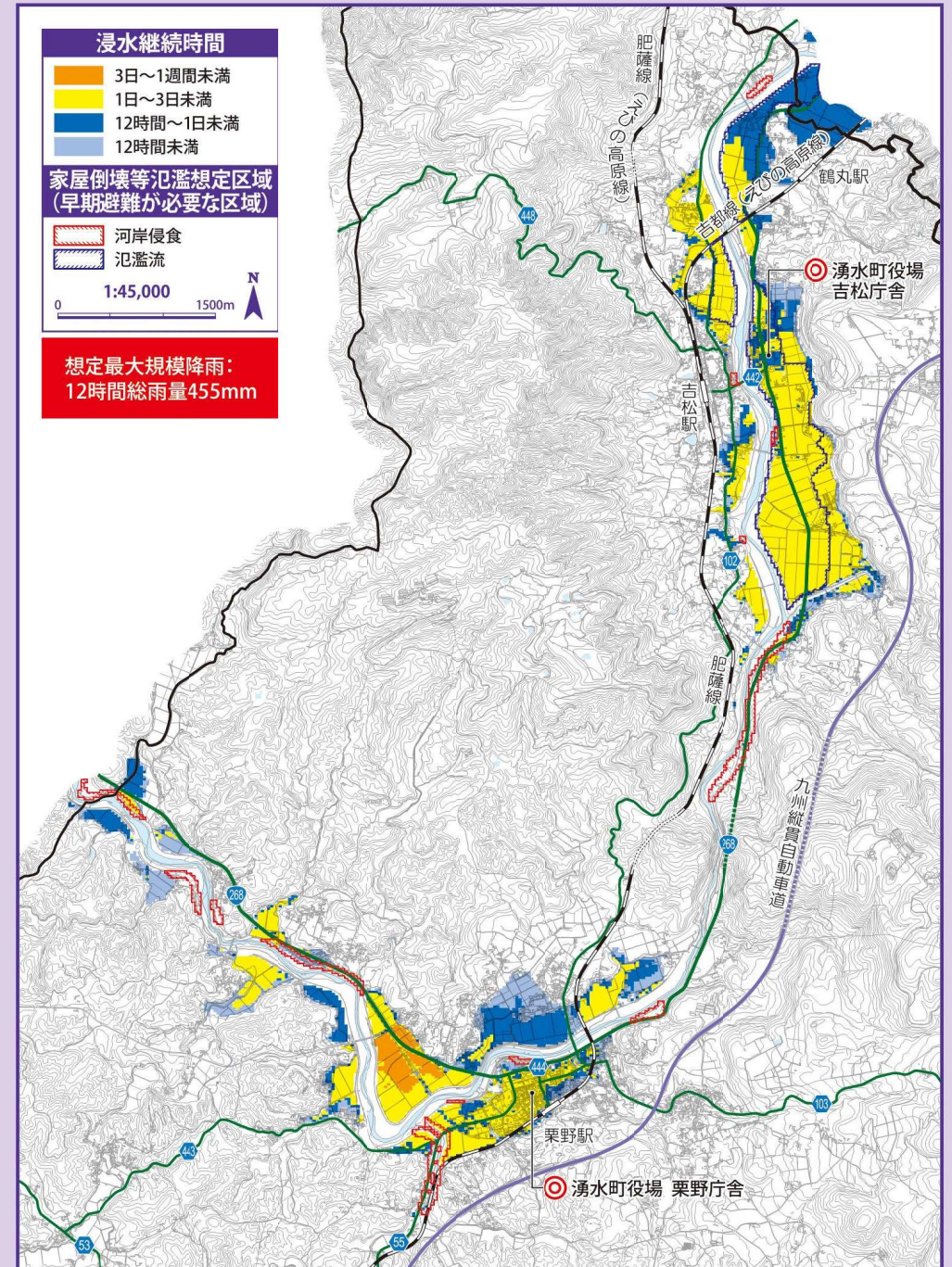
11-1



洪水ハザードマップ (最大規模降雨による浸水深)



洪水ハザードマップ (最大規模降雨による浸水継続時間)



避難施設について

万一の災害発生時には、災害の種類や被災状況に応じて避難所を開設します。避難所の開設や閉鎖の状況については、町のホームページや防災行政無線、メール配信サービス等によりお知らせします。この他にもテレビなどでも情報提供します。避難所は、土砂災害や洪水などの災害種別ごとに安全性等の一定の基準を満たす施設を指定しています。各災害に対し、避難可能な施設に「○」を、状況により避難可能な施設に「△」を示しています。

避難所一覧

No	地域	名称	住所	洪水/内水氾濫	崖崩れ・地滑り	土石流
1	栗野	栗野保健センター	米永445-8	△	○	○
2		いきいきセンターくりの郷	米永411-1	△	○	○
3		栗野小学校体育館	木場880-1	△	○	○
4		栗野中学校体育館	木場790	○	○	○
5		上場小学校体育館	木場4115-1	○	○	○
6		轟小学校体育館	恒次1043	○	○	○
7		幸田コミュニティセンター	幸田1767-2	○	○	○
8		彦崎公民館	北方1800-6	○	○	○
9		北方コミュニティセンター	北方2081-1	△	○	○
10		田尾原集落センター	田尾原97-1	○	○	○
11		二渡公民館	恒次1056-2	○	○	○
12		上場地区農構構造改善センター	木場4118-1	○	○	○
13		老竹地区コミュニティセンター	木場5354	○	△	△
14		長谷地区林業集会所	木場2396-1	○	△	○
15		坂元公民館	米永3368-1	△	○	○
16	吉松	吉松保健センター	中津川603	△	○	○
17		吉松中央公民館	川西845-1	△	○	○
18		鶴丸地区生活改善センター	鶴丸589-1	○	○	○
19		上中津川地区コミュニティ供用施設	中津川1733-16	○	○	○
20		川添地区生活改善センター	川添957-2	△	○	○
21		般若寺地区生活改善センター	般若寺301-2	○	○	○
22		コミュニティ防災センター	川西923-2	○	○	○
23		下川西地区コミュニティ供用施設	川西1501-10	○	○	○

安全な避難のために



自宅から避難先までの危険な箇所を把握し、安全に避難するためにはどうすれば良いか、事前に確認しておきましょう。



町から避難情報が発令されたときや、ご自身で危険を感じたときは早めに避難行動を開始しましょう。夜間や豪雨のときの避難は危険です。



水害や土砂災害、地震による災害から逃げるために、あらかじめ避難先を確認しておいてください。



安全に避難するために、避難する場所をあらかじめ決めておき、避難するタイミングなどを家族で話し合い、マイ・タイムライン(P.9~10)を作っておきましょう。

避難所3つのマナー

ゆずりあい



避難所はみんなで使うところです。限られたスペースしかありません。トイレの順番など、できるだけゆずり合いましょう。

おもいやり



避難所では大きな声を出したり、走り回ったりすると、まわりの人たちの迷惑になります。お互いにおもいよりの気持ちで、過ごしましょう。

たすけあい



ケガをしている人や体の不自由な人、また、病気の人なども避難所には集まります。みんなが少しでも快適に過ごせるように助け合いましょう。

要配慮者(災害時要配慮者)について

要配慮者とは、年齢や障がい、言葉の違いなどによって災害発生時の対応に何らかのハンデを負っている人々のことです。一般に高齢者や障がい者、乳幼児や妊産婦、日本語を十分理解できない外国人の方々などが該当します。地域で協力しあいながら、近所の要配慮者の安否確認、避難施設への移動を支援しましょう。

高齢者・病人

- 歩行の補助をするなど協力して安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。



目の不自由な方

- 声をかけ情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持つてもらい、半歩手前をゆっくり歩く。



肢体の不自由な方(車椅子)

- 階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、協力して避難する。



耳の不自由な方

- 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。



避難時の感染症対策・心得

●避難所に入るとき

- ・避難所担当者による発熱等の確認完了後、職員の指示で順番に避難所へ入ってください。
- ・避難所内では、マスクを着用してください。マスクをお持ちでない場合は、受付に申し出てください。

●密を避ける

- ・避難所は限られたスペースですので、どうしても「密」が起りやすいです。親戚や友人宅に避難することも検討してください。
- ・車中泊を行う場合は、エコノミークラス症候群や熱中症などに注意してください。

●衛生・健康管理

- ・ふたのあるトイレは、ふたをしてから流してください。
- ・定期的な検温を行ってください。
- ・体調不良の場合は、避難所運営者に申し出てください。
- ・持ち出し品としてマスク・消毒液を準備しておきましょう。

●手洗い、咳エチケットの励行

- ・避難所内では必ずマスクを着用してください。マスクのない場合は、避難所運営者に申し出てください。また咳エチケットも併せてお願いします。
- ・こまめに手洗いをし、食事前やトイレ後は必ず手洗い、手指消毒を行ってください。

3密回避

- 密閉空間 換気が悪い ▶30分に1度は換気を行う。
- 密集場所 多数が集まる ▶避難者同士の距離を保つ。
- 密接場面 近間で会話や発声 ▶近距離での会話や発声は最低限で。

